

アイオワ短期留学を終えて

甲府第一高等学校 1年 入月ひかり

このプログラムに参加し、多くのことを体験し学ぶことができました。この活動を終えて、印象に残った出来事が二つあります。

一つ目は、ポットラックディナーでのプレゼンテーションです。私達のグループは貧困という社会課題に取り組みました。このテーマは、とても深い問題で、発表直前までなかなかまとまりませんでした。本番の発表では、それぞれの役目を果たし、良いプレゼンが出来たと思います。私は今まで貧困について、しっかりと考えたことがありませんでした。しかし、このプレゼンテーションをするにあたり、四人のグループメンバーと共に議論を重ね、他のメンバーの貧困に対する様々な視点や考えに触れたことは、私自身の中で良い刺激になりました。これを契機に、貧困という課題に対し考えを深めていきたいです。

二つ目は、自分の英語力の未熟さを痛感したことです。これまで私は英語が好きだったので、それなりに勉強しているつもりでした。しかし、実際に会話をすると、私の英語は全然通じず、相手の人の言っていることも聞き取れず、理解できないことがあり、気まづくなってしまう場面が多々ありました。しかし、私のホストファミリーの人達は、私が理解できていないと分かると、ゆっくりと何回も話しかけてくれました。そんな温かい対応から、私も臆することなく、へたくそでも積極的に英語で話しをすることができました。

そして、ホストファミリーと行った「ファーマーズフェス」では、現地の手作り野菜や雑貨、伝統的な料理やお菓子のお店をたくさん見てまわりました。ストリートミュージシャンの音楽を聴きながら、屋台の食べ歩きなどホストファミリーと楽しい時間を過ごしました。私が日本で行ったことのあるお祭りとは異なり、とても開放的で、広いストリートでフェスに来た人達が自由に歌い踊り、音楽や笑い声が溢れ、道行く人達が気軽に私に笑顔で話しかけてくれました。相手の言葉を正確に理解することはできませんでしたが、相手の表情やジェスチャーで、自然に会話を楽しむことができました。そして、良いコミュニケーションとは、言葉だけではなく、相手を理解しようとする前向きな姿勢から、生まれるのだなと思いました。今まで経験したこと無い雰囲気、私はわくわくしました。それは、自分の国との文化の違いを感じると共に、自分が今、アメリカという国にいることを強く実感した瞬間でした。

一週間という短い期間でしたが、生きた英語に触れ、自分からコミュニケーションを取る姿勢を身に付けることができました。そして、以前よりずっと英語が好きになりました。更に、努力を重ね自分の語学力を

向上させていきたいです。



Amazing Days

甲府第一高等学校 1年 遠藤あかり

「あなたが考える『グローバル人材』とは、どのような人か」

留学前の最後の事前学習会で問われたとき、私はうまく答えることができませんでした。しかし、この留学プログラムを通して、自分なりの答えを見つけることができました。

アメリカを訪れるのは初めてだった私にとって、アイオワ州での体験は、どれも貴重で新鮮なものばかりでした。これでもかというほどボリュームミーな食事、まるでホームセンターのように何でも売られているスーパーマーケット、どこまでも広がっているコーン畑…。全てに共通して言えるのは、「スケールの違い」です。これは、日本にいては経験し得なかったことでしょう。また、生活観や風土の違いだけでなく、日本人とアメリカの人たちとの違いも見えてきました。アメリカの人たちはみな、とてもフレンドリーで、例えば買い物のレジでお互いに「Hi」「How are you?」と自然に声を掛け合います。さらに、繁華街などの人で込み合った場所では、人とすれ違うときに「Excuse me」と声を掛けるのが当たり前です。アメリカの人たちにとってはごく普通のことかもしれませんが、私にとっては本当に刺激的でした。日本人は、どちらかというところシャイな人が多いかもしれません。しかし、全く知らない人どうしても、笑顔で挨拶をすればそこに親しみが生まれます。この日常の体験から、私は笑顔でいることと、挨拶をすることの大切さに気付くことができました。

アイオワ州での日々は、私に成長のチャンスをも与えてくれました。このプログラムの1つで、アイオワ州の施設見学をしていたとき、私は体調が悪くなってしまいました。アイオワ州へ行く前にもこのことは想定していなかったのも、正直言ってショックでした。しかし私は、「どうしてこうなったのかと悔やむより、この状況を悪化させないために何をすべきかを考えて、行動する方が大事だ」と考えました。これは、全てのことに通じると思います。想定外のアクシデントが起こったとき、「どうしてこうなったのか」と原因を探ることも、もちろん必要です。しかし、「今何をすべきか」を判断して、「今」行動することの方がよほど大切なのです。そして、問題を解決するためには、周りとのコミュニケーションが欠かせません。私自身、そのときの現状と、自分がどうしたいのかを、添乗員の方や現地の案内の方に伝え、ホストファミリーの方や友人の協力のおかげで解決することができました。関わってくれた全ての人への感謝を忘れずに、このときの経験をこれからの活かしていきたいです。

「グローバル人材とはどのような人か」それは、問題に対しても人に対しても、「物事に正面から向き合うことができる人」、そして、「笑顔でコミュニケーションがとれる人」だと思います。この留学を通して得た経験は、何事にもかけがえのないものであり、アイオワ州で過ごした日々は、私にとっての宝物です。アイオワ州では、第二の

家族と、他校の親友ができました。この留学体験を糧に、今よりもっと自分が成長できるように、学校生活でも努力していきたいと思います。そして必ず、ホストファミリーとの再会を果たしたいです。



「日本アメリカの文化の違い」

甲府第一高等学校 1年 岡矢由菜

- ア. 留学前は、アメリカで働きたい、暮らしてみたいと思っていた。しかし、今回のアメリカ研修を通して、私は将来、日本で海外と交流することのできる職業に就きたいと考えた。自分が思っていたよりも、日本とアメリカには文化の違いがあるということが、実際にアメリカに訪れたことで分かった。だから、アメリカに住むということは、私にとっては簡単なことではないと感じた。そして、日本の文化の良いところを感じることができた。
- イ. 私のグループの課題と、この研修に応募する際に提出したレポートの内容が異なったため、社会課題に対する関心にあまり変化はなかった。
- ウ. 先生方がいない状況で英語を使うことがたくさんあったため、自力でその場を対処せねばなりませんでした。そのため、自ら積極的にコミュニケーションをとることができました。
- エ. 問題を解決する力に変化はありました。普段なら誰かに頼ってしまいますが、このホームステイの期間は、この貴重な機会を無駄にしてはならない、有意義なものにするぞという思いで、積極的に行動し、問題解決にあたることができました。
- オ. 日本とアメリカでは文化に違いがある、ということは知ってはいましたが、実際にアメリカに行くと文化の違いを感じ、驚きました。アメリカには、「いただきます」「ごちそうさまでした」に値する言葉がないということは、知ってはいましたが、実際にその状況になると、少し寂しく感じました。そして、スーパーやレストランでは、店員さんとお客さんの立場が対等であるように感じました。日本では、対等な関係ではないように感じていたので、少し驚きました。今回の体験を通して、私にとってのアメリカ文化の良い面、悪い面を感じることができた。良い機会だった。
- カ. 事前学習会がなければ、今回のアメリカ研修はこんなにも充実したものにはならなかったと思う。先生方に学習会で Don't be shy と励ましていただいたおかげで、アメリカでもそれを意識して生活できました。また、グループのメンバーだけでなく、たくさんの仲間とも打ち解けることができました。
- キ. ほとんどが英語での説明だったため、すべてを理解することはできませんでした。しかし、ワールドフードプライズや、コミュニティ・ガーデンでの農業体験を通して、アイオワが農作物を大切にしていることを知るすることができました。
- ク. 初めてのホームステイはとても不安でしたが、積極的に英語を

話すことができ、とても充実した時間でした。ホームステイ先の方をホストファミリーと呼ぶ理由が、実際にホームステイをしたことでわかりました。短い時間でしたが、本当の家族のように過ごしていただきました。



変化

甲府第一高等学校 1年 堀井麻矢

私は、今回が初めての海外研修でした。留学前と留学後で一番大きく変わったところは、外国人と英語に対する考え方です。

私は今まで、日本人が一番親切で礼儀正しいと思っていました。でも海外に行き、それは違うと思いました。留学でたくさんの外国人に出会いましたが、みんなとても親切でした。私のゆっくりな英語を真剣に聞いてくれて、分からないことを根気強く教えてくれました。また、写真をとってほしいと依頼すれば、必ず笑顔で写真をとってくれました。逆に私が何かをしたときは、ていねいにお礼を言ってくれました。アメリカの人は、フレンドリーでとても温かかったです。

私のホストファミリーも本当に親切でした。最初は何を話せばよいか分からず、聞かれたことに「はい。」としか言えませんでした。そんな私にも、ホストファミリーは優しく積極的に話しかけてくれました。そのおかげで、毎日少しずつ自分の考えを言えるようになり、聞きたいことも聞けるようになりました。電子辞書なども使い、使える英語だけではなく、新しい英語も使って、本当に話したいことを話せるまでに成長しました。私と同じホストファミリーだった友達が、とても積極的に会話をしていたので、それもととても良い影響になりました。最終日には、日本食をホストファミリーにつくり、異文化交流も図れました。その友達と、英語についての話をしました。そのなかで、

「最初は英語を聞き取れないことが大きな問題だったけれど、少しずつ伝わらないことの方が大きな問題になっていったよね。それはうれしかった。」という話になりました。最初は自分から話をしなかったので話を聞くことしかできず、何をいつているのかも分からなかったです。でも自分から話すようになったので、伝わらないという次のステップに進めた気がしました。このことは、私が留学前と後で変わった英語についての考え方にもつながります。

私は今まで、海外で使う英語の一番の問題は、話せないことだと思っていました。でも、実際に海外に行き、外国人の英語を聞き取れないことが第一の問題であると思いました。聞き取れないから、なんと答えれば良いのか分からず、話せないことにもつながるのだと感じました。しかし、完璧に聞き取ることができなくても、話すことはできるとも思いました。話そうとすれば英語は出てくるし、相手も理解しようとしてくれました。でも、理解してもらえないことも多かったです。だから、聞き取れないことの次の問題は、自分の英語が伝わらないことではないかと考えます。

これらのことをこれからの探究活動や、英語の学習などに活か

していきたいと思っています。



アメリカ！！

甲府第一高等学校 1年 山本ひなた

海外に行ったのは今回がはじめてだ。アメリカに行き、本場の英語に触れてみると、これまで3,4年も勉強してきた英語がほとんど聞き取れず、ショックを受けた。言いたいことを伝えることは割とできたが、聞き取ることが本当にできなかった。

このプログラムに参加する前は、山梨の観光などには全く興味はなかった。しかし、山梨やアイオワの観光について調べているうちに、だんだん興味がわき、街を見るときにそういったところに注目するようになったのだ。アイオワの観光や街づくりにおいては、芸術作品を増やしているところに特に興味がわいた。最近は私の市でも芸術作品が増えてきているからだ。高校の探究活動でもそのようなことを生かしたいと思う。

いままで、知らない大人の人に自分から積極的に話しかけるということはあまりなかった。しかし、アメリカではホストファミリーや、老人ホームの方に積極的に話しかけることができ、コミュニケーション能力が上がったように感じる。

また、この体験を通し、感じたことがある。それは、アメリカの人は感情に素直に生きているということだ。空港やバスの中でも、アメリカ人は知らない人でも陽気に話しかけてくれる人が多かった。それに、お店でうまく注文ができなかったとき、定員の方はあきれ、怒っていた。日本では知らない人が明るく話しかけてくれることはそうそうないし、お店ではどの定員さんもだいたい笑顔でいい対応をしてくれる。そのため、とても新鮮に感じ、それと同時にいいなとも感じた。個人的には、日本人もそんなふうにもっと自由に感情を表せるようになってほしいのに、と思う。

ホームステイでは、毎日ホストブラザーと、その友達、一緒に来た日本の仲間と毎日12時半くらいまで遊び、とても楽しかった。いままでしたことのない体験だったから、新鮮だった。それもまたいい経験だと思う。食生活は毎回体に悪そうなものが多く、私には合わなかったから、アメリカの食事で暮らしていくことは絶対できないと思ったし、ハンバーガーやピザへの好感度が少し下がり、うどんやみそ汁の好感度がぐんとあがった。

しかし、ホストファミリーと過ごす時も一緒にプログラムの日本の仲間といることが多く、日本語を使いがちになってしまい、英語を使おうとする意識があまりなかったことを反省している。そのため、困ることが少なく、課題を解決する力や英語力の向上などの成長にあまり繋がれなかった。それがとても悔しかったし、英語が全然聞き取れな

ったこともまた悔しかった。

だから、今回の留学は自分にとって大成功といえるかはわからない。けれど、これがきっかけで、これからは本気で本当に英語を頑張っ勉強しようと思えたし、大学ではまたアメリカなどの海外へ留学してリベンジしてやる！と思えた。だから、このプログラムに参加して本当に良かった。



一番最後になぞのTポーズ！はまってるらしい

「一週間を経て」

甲府第一高等学校 1年 依田一紗

ア、留学前、私には目標がなかった。だが、アメリカに行って、まったく英語が聴き取れず、会話をするとき返す言葉が出てこないとき、悔しさを感じた。悔しさを感じるということは、英語に興味・関心があり、もっと学びたいということだと思う。目標を見つけた。長期留学を試してみたい。今回は短い期間の留学であったが、短い間でも、少しずつ英語が聴き取れるようになった気がした。長期留学をすることで英語を身につけ、アメリカの文化にもっと触れてみたい。これまでの英語の勉強では全然足りない。日々さらに英語の勉強を頑張っていきたい。

イ、もともと人口減少については関心があったし、今回それについて学ぶ機会が少なかったので、関心への変化はない。だが、観光について関心がでてきた。山梨の観光をたくさんの人に周知させていきたい。

ウ、アメリカの人は、積極的に話しかけてくれたので、私も応えよう、話しかけよう、という感じでわりとコミュニケーションの力は少しあがったかなあと思う。でもまだ積極的になれない部分があった。

エ、問題を解決する力が変化したかはよくわからない。ただ、プレゼンは準備と情報の不足で、根拠が微妙だった。

オ、自分の優柔不断さに気付いた。よく「Yes or no」とホストマザーに言われた。そこで、自分っていつも曖昧な返事しているな、と思った。他人を気にして自分の意見を言うのを躊躇ってしまう。「どうする？」と他人に意見を委ねてしまっている部分も多いし、逆に聞かれたら即決できない。このままでは駄目だ。自分の意見を持ち、自分の意見がしっかり発信できるようにしていきたい。と、いつも思っているのだが、なかなか難しい。これからの課題だ。

カ、様々な人の意見を聞くことができよかった。だが、コミュニケーションをとれる機会がたくさんあったのに、積極的に他校の人と話をしなかったのは勿体なかった。

キ、いろいろなところにいけて楽しかった。留学前、アイオワは日本でいうと山梨みたいなもの、と聞いていたので、あまり期待していなかったが、思ったよりすごかった。私はアイオワ楽しいなと思ったが、逆に外国から山梨に来る人は山梨に魅力を感じるのか疑問に思った。

ク、アメリカの人の生活を身近に感じることができてとてもよかった。そういえば、ホームステイ先の家に時計なかったなあ。それに時間にもルーズだった。集合時間ぎりぎりくらいに到着していた。集合時間には間に合っているのだから、ルーズとは言えないのかもしれない。でも、日本で集合時間に来たら怒られる。なんで日本は集合時間前集合が当たり前のようにになっているのか不思議だ。



ナンバーワン！の写真。アイオワにて。所謂、インスタ映えする壁だった。アイオワすごい！

アイオワでの 8 日間を終えて

甲府西高等学校 1年 赤岡里咲

私は、初めアメリカに行くことが少し怖いと思っていました。自分が勉強してきた英語が伝わるのか、自分がネイティブの発音を聞き取れるのか不安があったからです。しかし、事前学習会の中で何度も先生が「Don't be afraid!」と言ってくださり、伝わるかわからないと言ってびくびくしているよりも伝えようとする気持ちが大切なんだと思うことができました。

また、私たちの班では、「山梨にあったらいい大学」テーマにして事前学習を進めました。あったらいい大学といっても大学はそれぞれの場所に合ったものがあり、その都市に求められているものが多くあります。話を深める中で最終的に日本での結論は、「海外への留学プログラムが充実している大学」となりました。そして、アメリカへと出発しました。

アイオワ州では日本でいう県の中に 10 個くらいの大学があり、人気の大学は「通いやすく海外との交流も多い大学」でした。よって私たちの班の結論は、日本のいいところとアイオワのいいところを合わせた「通いやすく留学プログラムが充実している大学」ということになりました。国が違っても必要としている大学は似ているんだと思いました。新たな発見でした。

他にも、アイオワの広大な畑での野菜の収穫では、日本とは比べものにならないくらい大きな野菜がたくさんあり驚きました。気候が違ったり面積が違ったりすると同じ野菜でも別物になるんだなと思いました。フードバンクや博物館の見学を通して食の大切さや、山梨とアイオワの深いきずなを感じました。

ホストファミリーの家では、初めはホストマザーやファザーが言っていることを聞き取ることで精一杯でしたが、2, 3 日たつと慣れてきて自分からも簡単な英語から話すことができました。言語が違っても伝わって話ができるととても楽しいと思いました。自分が学校で毎日勉強している英語もちゃんと伝わるんだ！と自信が持てました。けれどまだまだ単語量が足りないのでもっと勉強したいと思いました。ホストファミリーの方々もとても親切で本当に毎日落ち着いて生活することができました。本当に感謝しています。

最後に、初めは怖いと思っていた研修でしたが、参加して本当に良かったと思います。人とのつながりや、言語を飛び越えた思いの伝わりがあることを直に感じられて本当によかったです。そして、私もアメリカ人の方のようにダイナミックな表現ができるようにしたいです。



グローバル人材へ一歩近づく

甲府西高等学校 1年 南知里

ア 留学前と留学後の私自身のことについて

この留学を通して、私はこれまで自分自身の意見をはっきりと持っていなかったことに気づかされた。私は観光についてのプレゼンテーションを作成した。班員と話し合いをする機会が多かったが、私は上手く私自身の意見をまとめることが出来なかった。そして、アイオワに行き、様々な場所で考えさせられたことが沢山あった。そのときに、日本にいるときに具体的な考えを持つことができていなかったから意見がまとまらなかったことに気づいた。そして、自分自身の意見をもった上で意見を話し合うことの意義を知った。

イ 私の社会課題の対する関心の変化について

私はこの留学で観光について調べた。そのときに、山梨について深く調べた。これまで知らなかったことが多くあった。また、アイオワと比較して山梨とアイオワの両方の良い点を知ることができた。そこから、課題の解決法を考えることで新たな発見が生まれた。次第にその解決法を具体的に考え、更に課題への関心を高めることができた。

ウ コミュニケーションの力について

私はこれまで外国人と会話をする経験が少なかった。だから、現地の人々に積極的に会話することを心がけた。そこで、自分自身の意思を伝えることの難しさを知った。そして、辞書を使い、その都度新しい表現を知ることや、私にはわからないニュアンスの違いを尋ねた。それは、日本にいては、難しいとても貴重な体験であった。だから、私はコミュニケーションの力が高まったと感じた。

エ 問題を解決する力について

このプログラムを通して、班員と共に問題を解決した。それぞれの班員が違った視点で解決法を考えており、それについて有意義な話し合いができた。その考え方を取り入れ、多角的な視点をもつことができた。私は、自分自身のみで多角的な視点をとらえようとすることは難しいと感じた。まず、自分自身の考えを人に伝え、そこからアドバイスをもらい、さらに考えを巡らせていくことが大切だと知った。このことに気づけたことは、問題を解決する力が高まったということだと思った。

オ 体験を通して感じたことについて

私はアイオワの人々の積極性が最も印象に残っている。例えば、キャピトルにおいて議会をするときには、多くの人々がそこへ集まると知ったことだ。アイオワの人々は、地域の物事にとっても関心があった。しかし、私はこれまで地域の活動やボランティア活動を積極的に行ってこなかった。だから、様々な場所で話を聞き、アイオワの人々の積極性に驚いた。そして、これからは何事にも積極的に取り組めるよう、ボランティア活動などの小さなことから取り組んでいきたい。

カ 事前学習会について

私は、あまりコミュニケーションの力に自信がなかった。だから、会話の練習の場として有益であった。また、班員と交流することもできたため、その後の話し合いが円滑に進んだと思う。課題の解決法を事前に山梨で考えておくことにより、実際にアイオワにいきその考えに基づいた状態で様々な話を聞くことができた。そして、考えをより深めることができた。

キ 留学中のプログラムについて

行ったところ全てが、とても興味深い場所だった。私は観光について調べたが、その他のことにも関心を持って、考えさせられることが多かった。そのように考えた上で、他の班のプレゼンテーションを聞いたことは大変面白かった。このプログラムを通して、観光について更に関心を持ったこと、新たに関心を持ったことについて調べてみたい。

ク ホームステイについて

私は、可能性な限りホストファミリーと交流した。会話をしたり、日中疑問に思ったことを尋ねたりした。ホームステイをしたことで、このプログラムが私にとって更に有益なものになった。また、ホストファミリーに様々な場所に連れて行ってもらい、初めて体験することも多くあった。だから、ホームステイをしたことは、とても貴重な体験だった。



グローバル人材育成プログラムを終えて

甲府南高等学校 2年 大木涼輔

私は今回のグローバル人材育成プログラムを通して、物事を多角的に捉える力が身についたと感じています。今まで山梨県からあまり出たことのない私にとって、今回の留学は、私の物事に対する見方を大きく変えてくれたとても貴重な体験となりました。初めての海外ということで何もわからない私には、七日間という短い期間ではありましたが、毎日が大変刺激的でした。

全体の日程の多くを占めたアイオワ州での実地調査では、言語や文化の違いについて知識を深めることができました。特に、世界的な食糧危機に立ち向かったアイオワ出身の博士の功績を讃える記念館では、博士の偉業に感心する以上に、世界的に食糧難や貧困がまだ根強く残っているということに驚きました。自分が普段気にも留めないような問題が世界中で起きていると知り、視野の狭さを改めて痛感しました。また、その記念館ではアイオワにおける先住民の歴史についての説明もありました。これらの世界的、歴史的に重要な社会問題について学び、様々な社会的課題について関心が高まった気がします。他に、グループごとアイオワと山梨の抱える課題に関するプレゼンテーションを作成する際には、課題をどう解決するかを考えました。どちらにも共通する社会的課題について、私たちならではの視点から解決策を導き出すことができました。このプレゼン制作では、現地の学生の方々に協力していただきました。その中で、自分たちとは異なった考え方を取り入れていくことで、より良い課題解決を考えていく力が向上したと思います。

今回の留学では、コミュニケーション能力の向上も実感しました。アメリカで初めて生きた英語に触れ、始めのうちは理解するのに精一杯でしたが、難しいからこそ普段よりも積極的にコミュニケーションを取ることができました。私が最も楽しみにしていたホームステイでも、完璧に理解することはできなかったものの、ホストブラザーとたくさん会話することができ、英語力の向上にも繋がりました。グローバルな人材を育成するという今回の研修の最大の目標に、少しでも近づけたのではないかと思います。

今回の留学プログラムでは、これまでに挙げたこと以外のものでも様々な場面で自分の成長を感じることができました。私たちが生きていく社会は、今後更に、海外との関わりを持つことが当たり前になってきます。そんな中で必要となってくる「グローバルな人材」というものに近づくことのできた、とても有意義な留学経験になったと感じています。この留学で培った様々な力を伸ばしていけるよう、学びを

深めていきたいと思います。



海外研修を終えて

甲府南高等学校 2年 河野紗也加

今回の研修への参加は、私にとって大きなチャレンジでした。私は英語が得意なわけではないし、初対面の人に対して必ずと言っていいほど人見知りをしてしまいます。そんな私だからこそこの研修で殻を打ち破りたい、将来の夢に近づきたいという強い思いを抱いていました。

研修の中のメインともいえるホームステイは、とても刺激的で楽しかったです。一人でホームステイをすると知った時から不安と緊張でいっぱいでした。実際に会ってからなかなか会話が続かなかったり、言葉が聞き取れなかったりして、早くもくじけそうになっていました。ですが、そんな私をホストファミリーは本当の家族のように優しく助けてくれました。ネガティブモードになってしまった私に笑顔でたくさん話しかけて、ポジティブモードに引き込んでくれました。私はこのアメリカ人らしい前向きな優しさがとても嬉しくて、この研修を全力で楽しもう、最後まで頑張ろうと決めました。

私は研修中にたくさんのアメリカ人らしさ、日本人らしさを発見しました。「〇〇らしさ」とは、何かを比較することで生まれるものですが、アメリカ人の性格は控えめな人が多い日本人とは対照的に感じるが多かったです。特に、ホームステイ2日目の夜にホストファミリーと行った野球観戦は、愉快で社交的なアメリカ人の性格がよく表れていたと思います。隣の席の見知らぬ人とハイタッチをして一緒に喜んだり、音楽に合わせてみんなで即興でダンスをしたり、日本では見られない光景にびっくりしつつも普通の野球観戦以上の楽しさを味わうことができました。この野球観戦はホームステイでの一番の思い出です。

日本語には、「謙虚」という肯定的な言葉が存在します。だけど、自分を前に出すことは、決して恥ずかしいことではないし、すごく大切に楽しいことだと身をもって知ることができました。他国の人と実際に接する中で、それぞれの国の思考や感覚の違いによって、戸惑ったり、気分を害したりすることがあるかもしれません。それでも、相手を思う気持ちは変わらないし、一生懸命に伝えようとすれば必ず通じ合えます。そのことを、ホストファミリーを始めとするたくさんの現地の人から学びました。

初めてのことばかりだった今回の海外研修では、新しい見方や考え方、自分の将来を考えるきっかけなど幅広くたくさんのことを得ることができました。そして新しい友達もできました。本当に参加して良かったです。私はこの経験をたくさんの人に伝えて、異文化理解の架

け橋になりたいです。また、この経験を将来の自分にも繋いでいくために、英語の勉強や社会に関する情報収集など今できることを頑張っていきたいです。



勇気がくれたもの

甲府南高等学校 2年 陳睿壹

私は、このプログラムに参加しようかどうか悩んでいた。初のアメリカ留学に気が滅入ってしまったためだ。そのために長年アメリカに行ってみたいと思っていたが、中々決心することができなかった。しかし、今を逃したらもう良い機会がないかもしれないと思い、勇気を出し参加してみることにした。

長時間のフライトの末、アメリカに足を踏み入れた瞬間は大きな喜びに打ちひしがれ、夢が叶った感動を味わった。シカゴからアイオワに着くまでホームステイのことでずっと緊張していた。初めてのアメリカ、初めてのホームステイで意識がずっと上の空にあるような感じがした。（時差の影響もあったと思う。）ホストファミリーと積極的に話そうと思っていたが、いざ対面してみると、何を話せばいいのかわからずなかなか英語が出てこなかった。初日はホストファミリーと話せるだろうか不安だった。しかし、何か話さなければと思い、勇気を出して話しかけてみた。ホストファミリーは私の拙い英語を理解しようとし、会話を続けようとしてくれた。優しいホストファミリーのおかげで無事ホームステイを終わることができた。ホストファミリーと過ごした4日間は私にとってかけがえのない思い出になった。また、その4日間で他校の新しい友達もたくさん作れた。このプログラムで会わなかったら、きっと知り合うことがなかった人達なので、この出会いを大切にしたい。

社会問題として、私は「貧困」について調べた。アメリカも日本も先進国でありながら、子供の貧困率は極めて高い。アイオワ現地のフードバンクに行き、フードバンク山梨とは異なることを知った。

アイオワでは「貧困」を州の問題として捉えているが、日本での「貧困」問題の認知度は低いと感じた。世界の人口は1秒に2人ずつ増えている。その反面、食糧不足、医療制度の不整備など様々な理由により、5秒に1人が死んでゆく。私たちは5秒後に自分が死ぬかもしれないとは考えないが、世界のどこかでは確実に死にゆく人がいる事実を忘れてはならないと思った。「貧困」は深刻であり、とても難しい課題でもある。今回を機に、もっと社会問題に関心を持ちたい。

2018の夏休みは間違いなく忘れられない経験をしたと思う。大切な仲間に出会い、8日間をアメリカで過ごすことができた。日本に帰ってきたとき、アメリカが恋しくなったのは言うまでもない。それくらい素敵な旅行だった。しかし、反省点もたくさんある。自分の英語力のなさもあるが、ずっと消極的な態度だったのでホストフ

アメリカとたくさん会話することができなかったことが心残りである。また、一緒に行った仲間と日本語で話してしまい、満足に英語を話すことができなかった。これらの反省を生かして、次に留学行くときは同じ過ちを犯さないようにしたい。



留学を終えて

甲府南高等学校 1年 豊山夏梨

私は、今回の留学で社会問題の対する興味や知識が高まったと感じています。学習会の参加する前までは、山梨の社会問題について考える機会を与えられてもこれといったテーマや解決策が出てきませんでした。日本を客観的に見れていなかったというのもあると思います。

私の班は「農業」についての社会課題で「後継者不足」についてプレゼンを作っていたのですが、これを克服できる解決策はないと思っていましたし、視野が狭かったので考えられる範囲も限られていました。内容もあまり深まらず、良いプレゼンを発表できるのだろうかという不安な気持ちを抱えながら、現地の行ききました。高校生とプレゼン作成の日、案の定私達は重大なことに気付かされました。それは、プレゼンのテーマと内容がかみ合っていないということでした。結局プレゼンは途中からやり直しで、発表の時間も迫っていたので、頭を抱えながら奮闘していると、現地の説明係としていつもついてくださっていたキャシーさんが手助けをしてくださいました。アイオワ州の農業イベントや取り組みについて詳しく教えてくださり、現地の高校生と先生方の協力もあり、何とかプレゼンを完成させることができました。

キャシーさんのお話はとても貴重なもので、私は山梨との違いについて深く考えさせられました。アイオワ州では、子供達でも楽しめる、有名なイベントを行っていました。このイベントで、子供たちの興味を持ってもらい、後継者を増やそうとしているそうです。

考えてみると、山梨県にはこのようなイベントはありません。私は話を聞く中でこのようなことを学んだし、何より「解決策があった」という喜びが大きかったです。多くのことを学ぶと、次から次へと「違い」が見つかるのだなと思いました。また、途中からやり直すという失敗がなければ、この話は聞けず、学んだこともなかったと思うので結果的に失敗があつてよかったなと思います。個人的にも、山梨にもみんなが知っているような農業イベントを作りたいと思いました。

私は、この経験を通して自国を客観的にみられる楽しさと社会問題の解決策を考える楽しさを学ぶことができました。

今回、ホームステイをして思ったことは、前に海外旅行に行っていたよかったということと、真面目に英語を学んできてよかったということです。もし、今回が初めての海外だったとしたら、不安すぎて本来の自分の姿で過ごせなかったかもしれません。また、英語の学習量が少なかったら、聞き取れる分を聞き取れず、学んだことを日本に持って帰ってこれなかったかもしれません。

現地では、積極的に会話をすることを心がけていましたが、やはり初

めは緊張しました。しかし、ホストファミリーがわかりやすい英語で沢山話しかけてくれたので、安心することができました。また、自分の英語は現地で通じるんだと分かった時には、もっと話したいと思うことができました。そして、デモインを離れる時には日本語より英語のほうがはなしやすくなっていて、友達と英語で話すこともできました。留学をする前は英語で話すことを恥ずかしがったり、物怖じたりしてしまって、学校のALTの先生ともあまり話すことができなかったのですが、自分の英語にとっても自信が持てたように感じます。今回の経験はとても充実したものになったと思います。

今回の貴重な経験を無駄のせず、今後は今以上に英語の学習に力を入れていきたいです。また今回一緒に留学した先輩方でとても英語が上手な先輩がいたので、その人を目標に頑張りたいと思います！



報告書

甲府東高等学校 2年 杉山皓仁

今回の「山梨県グローバル人材留学育成プログラム」は私にとって初めての英語圏の国への渡航だったため初めは期待や不安など様々な思いでドキドキしていました。またドイツの詩人ゲーテの名言であり私の座右の銘でもある“without haste, but without rest”という言葉を念頭に置いて多くのコミュニケーションをとろうと思っていました。私が今回の機会が一番いい経験をしたと感じたのはホストファミリーとの生活です。観光地に訪れるということでも、もちろん多くの事を学ぶ事ができました。しかしホームステイではまた違う自然な外国の家庭をあじあう事ができました。私がお世話になったホルシャー家はファザーとマザー、シスター、ブラザーと2匹の犬と1匹の猫で構成されていました。ホストファミリーの全員が日本に興味があったため日本について話したり日本の娯楽を一緒に楽しんだりして賑かで自然な家庭を体験することができました。またホストブラザーが、他の2家庭のホストブラザー同士と仲がよかったため毎晩のようにアメリカン映画で描かれているような生活を皆で送ることができました。例えば、夜に誰もいない駐車場の屋上に上がって夜景を見たり夜の12時からファイヤーがはじめてスモアをつくったり深夜に夜ご飯としてタコス屋さんに行ったりということがありました。その中でももっともアメリカ人の優しさを感じたことはラストの夜に私がホストに「今日は最後の日だから徹夜して最後の夜を楽しみたい」と言ったときにその友達を巻き込んで1つの家に集まりみんなでゲームしたり話したりして夜を過ごしたところです。夜なのに心おきなくみんなで騒がしてくれるところにアメリカ人の心の広さや常識はずれのことでも簡単にできてしまう行動力の良さを感じました。

今回のプログラムに参加したことで学べたことは主に2つあります。1つ目は、スケールの違いや文化の違いを体験することなど日本では体験することのできないことを体験したことで日本規模ではなく世界規模の広い視点で物事を考えられるようになりました。2つ目は、実際に話してみなくては体験できないとても流暢な英語やネイティブならではの表現の仕方を学ぶ事ができました。また改めて海外に行くことの大切さを改めて実感する事ができました。これは、このプログラムの企画と援助をしてくれた山梨県とこのプログラムに参加することを許してくれた両親のおかげだと思います。だから多くの方への感謝の気持ちを忘れずこれからもしっかりと勉強していくとともにこのように素晴らしい経験を積めるということをもまだ体験したことのない友達に素晴らしさを伝えたいと思いました。



グローバル人材育成プログラムを終えて

甲府東高等学校 2年 堀松奏斗

昨年度、県の JENESYS2017 韓国派遣プログラムに参加し、それ以来海外留学に関心を持ち今回のプログラムに参加しました。

将来について、具体的なビジョンをあまり持てない中、漠然と国際的に何かをしたいと思っており、英語の学習や見聞を広げる為にも1度はアメリカを訪れてみたいと思っていました。今回訪米前に目標としていたのは「実践的な英語力を身につける」、「異文化を理解する柔軟な思考を磨く」の2点でした。日本には学べないことを選びましたが、訪米中は意識せずともあらゆる面でこの2点について考えさせられました。

「実践的英語力」については最初は自分の英語力の未熟さを痛感しました。聞き取ることは出来ても返答に時間がかかり、簡単な単語さえ出てこなくなり、疲れてくると話の内容の理解も困難になりました。またホームステイ先の幼い子達の容赦ない会話速度に自信をなくしかけました。しかし少しずつ慣れ、最終日には、自分から話しかけ話の内容を自分の関心のあるものにしたり、文法は気にせず単語や口調、ジェスチャーなどでコミュニケーションを取れるようになりました。コミュニケーションとは言語だけではなく、様々な手段を使って意思疎通をするものであること、独特の言い回しや学校では習えない表現などを学ぶことが出来ました。

「異文化を理解する柔軟な思考」について、一番印象的だったのはプレゼンの発表前にジョークを言うよう勧められた時でした。社会問題を扱うプレゼンの前にその内容を簡単に紹介するジョークを言うのがアメリカ流だと聞き文化の違いを感じました。またホームステイ先でご両親と環境や社会問題、留学経験などについて夜遅くまで意見を交わし、文化や考え方の違いや、その違いは様々な歴史や環境の違いが関係していることを実感しました。またアイオワ州のプログラムでは歴史的な場所や農家など様々な場所を訪れ、食べ物や歴史など、その全てで日本との違いを実感することが出来ました。

今回は事前学習を通し、社会問題についてのプレゼンを作成し発表しました。「貧困」というテーマはとても難しく発表直前まで、原稿作成に苦労しましたが事前学習も積極的に意見が交換でき充実したものになりました。またアイオワ州でフードバンクを訪れ、プレゼンを作成する過程で多くの情報に触れることで、「貧困」の深刻さや根絶の難しさについても考えさせられました。今後自分も社会の一員として生きていく上で常にこの問題に関心を持っていなければならないと感じました。

今回の留学では渡航前に掲げた2つの目標以外にも様々なことを学ぶことが出来ました。ホームステイ先や自由行動で言語や文化の壁を感じることも多々ありましたが、積極的にコミュニケーションを取り、また失敗を生かすことで問題解決能力も磨くことが出来ました。とても短い期間でしたが多くのことを学び将来へ生かせる一週間でした。



アメリカ研修を通して学んだこと

甲府昭和高等学校 2年 大久保励

- ア 留学前、私は自身の英語学習が本当に海外で通用するのか疑問を抱いていました。そして留学を終えて、自分自身の英語学習が正しかった事を自らで証明する事ができました。まだまだ学習者として未熟な私ですが、完璧を目指して勉強していきたいと思います。
- イ 私は政治に関して興味がありました。私のホストも政治に興味があり、互いにアメリカの政治について話し合いました。現地に住んでいるからこそその意見が出て更に関心が深まりました。
- ウ コミュニケーション能力が上がったと感じた瞬間はプレゼンテーションをした時です。何故か、私たちのパワーポイントのデータが消えてしまい、一度、場の空気が止まりました。その時私は咄嗟に「Someone discards our data.」と言いました。その一言で場の雰囲気を変える事ができました。
- エ 私の班は「農業」、特に「農業の促進方法」について解決策を探りました。班員一人一人の課題は違ったものの、様々な解決策を見つける事が出来ました。山梨の農業だけでなく、アイオワの農業とも比べる事で双方向の繋がりを発見する事ができ、問題解決能力を習得する為のきっかけを掴む事が出来ました。
- オ 私が感じた事は、「人の温かさ」です。私のホストを含め、私がアメリカで出会った人は全員優しい人ばかりでした。私も日頃からどんな人でも暖かく、親切に接しようとして心に決めました。
- カ 事前学習会に参加することで、私は留学に対する不安を軽減する事が出来ました。特に英語でロールプレイをする事で、より具体的な状況下でどのようにコミュニケーションをとればよいのか、分かり易く学ぶ事が出来ました。そしてジェニファー先生の授業では、分かり易いプレゼンテーションの仕方を学ぶ事が出来ました。この授業のおかげで、プレゼン発表時に安心して発表する事が出来ました。
- キ 各班の課題に対応した場所（農業ならコミュニティーガーデン、貧困ならフードバンクなど）を実地調査する事で、課題についての理解を深める事ができました。そして今回私が感じたのは、貧困と農業は深く結びついているという事です。コミュニティーガーデンで育てた作物をフードバンクに寄付し、フードバンクは潤い、コミュニティーガーデン側も間接的に消費者に宣伝できる。これが幸せになるサイクルだと思いました。
- ク 私のホストは大学生だったので、アメリカの学生の夏休みを一緒に過ごす事ができました。ホストと共に行動する事で、リアルな実生活を感じました。特に文化の違いを感じた点は「友達の家で過ごしている時、夕食の時間になった場合その家の親が夕食を作る事」です。私が行った二つに家で同じ事が起こりました。日本の一般家庭では、夕食時になったら自身の家に帰るのが

普通です。しかし、何一つ嫌な素振りを見せず留学生の僕たちにも夕食を振舞ってくれた事に驚きました。そしてその夕食はとても美味しかったです。



アイオワ留学を終えて

甲府昭和高等学校 2年 鈴木愛理

私はこの夏、人生で最高の経験をする事ができました。自分の将来の夢に向けて必ず海外留学をしたいと考えていた私は、今回のプログラムの詳細を知り面接を受けました。受かったことがとても嬉しかったのは確かなのですが、このプログラムで経験したことで得た喜びにはかないません。優しい友達や親切でユーモアのある先生方とアメリカに行くことができ本当に嬉しかったです。

アイオワ留学において私が一番の収穫だったと思ったものは、事前学習や現地での活動で日本からの学生全員と仲良くなれたことと、アイオワ現地で友達を作れたことだと思います。英語が完璧な生徒はほとんどいなく、仲間が協力して意思疎通を図り、みんなで一つのものを完成させようと一生懸命になれたことはすごく良い経験でした。現地に行っても英単語を教えあったり、英会話の練習をしたりと男女関係なく仲良くなれたのは最高の思い出です。

また、現地の学生やホストファミリー、アイオワでのプログラムに同行してくれたキャシーなどの多くの外国の方とコミュニケーションを取り、仲良くなれたこともとても心に残りました。アメリカの方はとても優しく、言葉が上手に伝わらなくても私たちを理解しようと懸命に話を聞いてくれる姿は頭から離れません。時にはジェスチャーも用いて笑顔で語りかけてくれたホストファミリーやキャシーに感謝しています。現地の学生のみならず私たちの話を楽しそうに聞いてくれて、話しているこちらも緊張することなくコミュニケーションを取ることができました。アイオワで出会えた全ての方が大好きで、今とても恋しいと感じています。

そしてアイオワで生活していて気づいたことは、現地の方はとても積極で大胆な人が多く、何事にも控えめではないということです。多くの方がよく笑って会話していて、年の差も関係なく最近の出来事を語っていてとても刺激を受けました。改めて日本人の積極性の低さに気づき、驚くことになりました。私も真似してできるだけ喋るように心がけましたが、現地の人のようにラフな会話ができない自分が悔しかったです。話したくて伝えたいと思うのに気持ちが伝えられないという場面がよくあったので、次に海外に行った時には会話がもっとできるようになるために勉強しようと強く思いました。このままではダメだと本気で思う事ができたので、必ず努力してより英語が流暢に話せるように頑張ります。

アメリカの文化やアイオワの美しい自然、人の暖かさに触れることができる最高の経験がたくさんできたので、これからはこの経験をかてに色々なことに積極的になろうと決めました。自分の意思をしっかりと伝えられようポジティブな考えをもっと持っていきたいとおもいます。また、今回できた最高の友達を大切に、同行してくれた先生方や高橋さんへの感謝を忘れずにこれから

も生活していきます。本当に最高の経験をありがとうございました。



報告書

甲府昭和高等学校 1年 中村にこの

今回のプログラムは私にとってたくさんのことを吸収する機会になりました。事前学習の時は楽しみという気持ちより不安の方が大きかったのですが、当日から全力で楽しむことができました。

初日、長い空の旅を終え空港に到着してすぐの出来事。引率の先生方から一通りの流れを聞き安心していたのもつかの間。空港の職員の方に流暢な英語でたくさんのことを早口で聞かれ戸惑ってしまいました。それが挙動不審に見えたのか、簡単には通らせてもらえずとても困りました。その時は怒りの気持ちしかなかったのですが、今思うと良い経験をさせてもらったと思います。この経験からもっと一生懸命英語を勉強して、いつか見返そうと思いました。

アイオワに到着するとホストファミリーの方々が温かく迎えてくださいました。私のホストファザーは始終優しい笑顔で私たちに英語をたくさん教えてくださいました。朝の車の移動などでも道路の標識などで私たちに English practice をしてくれました。日常で使う英語なども会話から吸収できるように頑張りました。意味がわからないとスマホや辞書と一緒に調べてくれてとても恵まれた環境で学ぶことができたと思います。

現地の学生とプレゼンを練り直す時には私の眠気がピークで、もったいないことをしてしまったと後悔しています。現地の学生の方々は一緒に文を練り直してくれたり、日本語で話してくれたり、とても楽しい時間でした。英会話だけでなく、現地と日本の違いにも驚いた1週間でした。まず第1にトイレの違いに驚きました。外国の方は日本人と違い、足が長いからかとても便器が高かったと感じました。また、日本の方が衛生的で綺麗だと感じました。日本は街が綺麗と世界からも評価を受けているので、この良い文化が世界にも広がっていくと嬉しいです。食べ物については大きさに驚きました。お肉がとても大きくて美味しかったので食べ切りたかったです。他にも信号機や標識など沢山の違いに気づけた良い経験になりました。

今回の渡航は私にとって3回目の経験でしたが、家族なしで行ったのは初めてでした。たくさんのアクシデントもありましたが、全て良い経験になったと思います。英会話力を鍛えること、自立すること、集団で行動する時は勝手なことをしないということ。たくさんのことを学ぶことができたのは家族、引率の先生方、添乗員の方、ホストファミリーなどたくさんの方々がいたからこそ経験して、学ぶことができたと思います。経験させてもらったことに感謝し、これからの日常生活、英会話力向上につなげていきたいと思います。



一生の宝物

市川高等学校 2年 木村美幸

私にとってこの1週間は今までで1番充実したものになりました。私は今回が初めての海外渡航でした。出発するまで、英語を話すということに不安しか持っていませんでした。しかし、現地に行ってみるとその思いはあまり感じることなく楽しく過ごすことが出来ました。

長時間のフライトを終え、空港に足を踏み入れるとそこは当たり前のことですが、すべてが英語で溢れていました。当たり前のことでも私にとっては初めてでとても感動したのを今でも覚えています。そこで出会ったホストファミリー。遅い時間だったのにも関わらず、笑顔で私達を迎え入れてくれました。英語があまり上手でない私の英語を一生懸命理解しようとして聞いてくれました。それに応えようと自然と英語を話そう！話したいと思うようになれました。それから過ごす日々はあっという間でした。一緒にファストフード店に行ったり、ショッピングをしたり、ドライブをしたり。すべてが楽しく、一緒に過ごせたことがとても嬉しく、この体験は一生の宝物になりました。

私達のグループは山梨県、アイオワ州との共通した社会問題として人口減少を上げました。私達は若者に必要とされている大学を建設し、さらにその周りに飲食店や商業施設を建て、college townとして雇用を増やすことが出来れば人口減少を食い止めることができるのではないかと考えました。アイオワ州の大学のデータなど集めるのが難しく、何度も修正しながらで、不安もありましたが最後にはしっかりと発表が出来たのでよかったです。これを機に山梨県の社会問題に私達学生が目を向け課題解決策を考えるということはとても大切なことだと思うことが出来ました。

私は、今回の短期留学のなかの福祉施設訪問がとくに心に残っています。初めはアメリカまで来てどうして福祉施設になんて行かなきゃ行けないんだろうとばかり思っていました。テーブル席で老人の方3人に対して私一人と気まづくなったらどうしようなど思っていました。しかし、隣の席に座っていたおじいちゃんが自己紹介をしてくれ、皆さんと少し打ち解けることが出来ました。さらにそこから、私の住んでいる町についてだったり、お互いにやっているスポーツなどたくさんのお話をすることが出来ました。最後には話すために少し使ったメモ用紙をそのおじいちゃんがこれから大切にするといい、持ち帰ってくれました。そのことが私にとってはすごく嬉しかったです。とても貴重な体験をすることができて本当に良かったです。

今回の短期留学は私に、私にとっての英語を勉強する意味を気づかせてくれました。また、これからの英語学習のやる気を与えてくれまし

た。この貴重な体験が無駄にならないように、将来グローバル人材として活躍できる人となれるよう、これからの英語学習に役立てていきたいと思います。そして、必ずもう一度アイオワ州に行き、今回お世話になった方々に恩返しがしたいです。



初めてのアメリカ

市川高等学校 2年 松田桃佳

留学する前、アイオワ州はトウモロコシ畑ばかりで店もあまりなく、田舎というイメージしかありませんでした。しかし、実際に行ってみるとショッピングモールなどがたくさんあり、人々は日本よりも優しく想像していた以上に凄く良い州でした。

私たちのグループは日本の農業従事者の減少と言う問題について調べ、農業に対する 3K(キツイ・汚い・危険)を new 3K(カッコいい・感動・稼げる)にするという解決策を提案しました。この〈感動〉は実際に私たちがアイオワ州の畑で日本の 4 倍くらいの大きさの野菜の収穫体験をした時に実感する事ができました。

私は小さい頃からアメリカに行くのが夢でした。この夢が叶った 8 日間で私は凄く成長できたと思います。楽しかった事もあれば、失敗した事もあります。デモイン空港に着きホストファミリーと会う前、飛行機やホームステイなど、何もかもが初めてばかりだったため、私は凄く緊張していました。しかし、私の名前が書かれたボードを持っているホストファミリーを見つけ最初の会話をした時、とても優しく全ての緊張と不安が一気になりました。ホストファミリーは本当に自分の子供のように扱ってくれて、ここはあなた達の家だからリラックスしてね、と言われて嬉しかったのを今でもはっきり覚えています。また、私の下手な英語を一生懸命理解しようとしてくれて、正しい発音まで教えてくれました。趣味は映画鑑賞という事を事前にメールで言っておいたら、家にはたくさんの洋画が用意され、休日には映画館に連れて行って一緒に映画を見せてくれました。そして、美味しいハンバーガーやアイス屋さんにも連れて行ってくれました。スーパーでは、どんなものでも日本とは比べ物にならないくらいの種類があって、サイズも大きくて値段も安くて、興奮してしまい買いすぎたら店員さんに笑われてしまいました。ホストファミリーとの最終日にテラスでアイスを食べ、これが最後だと思うと凄く悲しかったです。空港でのお見送りの時に私たちは手紙を渡しました。私は将来 Iowa に住みたいと言うと、大歓迎だと言ってくれて、最後のお別れの時には涙が出そうなり、本当にアイオワに住みたいと思いました。ホストファミリー、一緒に行った日本の友達、環境に恵まれ、8 日間も充実した生活をアメリカで過ごせた私は世界で一番の幸せ物です。アイオワ州は店もたくさんあり、どこから見ても景色が綺麗で出会った人も優しくとても過ごしやすい所でした。

私は英語を話すのに緊張する事はありませんでした。しかし、言いたいのになんと言えば良いのか分からなくて、食事中や車の中で無言に

なってしまう事があったのが残念です。せっかくホームステイしているのだから積極的に質問しようと思っていても言いたい事が伝わらなかった事が何度もあり私は凄く悔しかったです。この想いを忘れずに、自分が言いたい事を相手に分かってもらえるくらいの英語力を身に付けるよう努力したいと強く思いました。そして、成長してもう一度このアイオワの地に帰ってきたいです。



素晴らしい発見の連続

日川高等学校 2年 宮原空来

1週間の留学でどんなことが得られるのだろう。何が変わるのだろう。と期待と不安を抱いて出発の日を迎えました。この留学中に私は積極性を大切にするという目標を立てました。

留学中に特に印象に残っていることが4つあります。

1つ目は、異文化体験についてです。アメリカの異なる文化に触れることで多くの知らなかったことを知り、異なる文化だからこそ知ろうという姿勢やお互いの国を紹介したり認め合ったりできるのだなと思いました。国境があるからこそ分かり合おうとする絆が生まれました。この留学を通して異なる文化の重要性を感じました。将来、世界をボーダーレスな世界に出来ることをしたいと考えています。全ての人を尊重しつつ異なる文化を共存させながら、ボーダーを大事にしながらボーダーという概念を無くしたいです。

2つ目は、ホームステイについてです。ホストファミリーは常に私のことを考えてくれて、とても温かい方々でした。初めて会った日に名前と好きなものを一致させて覚えていてくれたことが嬉しかったです。感謝と敬意の気持ちをもって本当の家族の様に遠慮はなしに振る舞うことがホストファミリーに1番感謝が伝わると思いました。

3つ目はこのプログラムに参加した山梨からの友達との出会いです。英語が話せるようになりたいという同じ志を持った人たちと協力しながら過ごした1週間はとてもかけがえのないものになりました。友達から多くの刺激を受け、さらに頑張るって英語学習をしたいと思えました。

4つ目は積極的にコミュニケーションをとることの大切さです。自分の英語で伝えられるか不安な時も積極的に自分から話しかけることを心がけました。英語でコミュニケーションをとる上で一番大事なことは、英語力ではなく伝えたいという気持ちがあるかどうかということだと実感しました、伝えたい気持ちがあれば、相手も一生懸命分かろうとしてくれます。積極的に話して輪を広げられてとても楽しかったです。

この留学のプログラムを通してとても多くのことを学び、実際に体験してみなければ分からないことがありました。これからの人生に対する意欲が湧き、素晴らしい出会いが沢山あったことに感謝したいです。

